

## 建築基準法対応用 施工マニュアル

### 建築基準法対応用

〈注意〉本品は一般用(JISA6604)と建築基準法対応品とを兼用しております。

建築基準法では、各地域毎の基準風速及び積雪量を設定しており、(各地域の所轄窓口でご確認ください。)その条件により設置できるサイズや柱の本数、補助柱の有無、基礎の大きさが異なります。本マニュアルをよく読んで施工を行ってください。組立手順は、基礎部以外一般用と同じになりますのでME-1261又は、ME-1454をご参照ください。

■ 対応除外 一般品と異なり、建築基準法の対応から除外されるパターンです。

- ✕ サイドパネル付きは、建築基準法に対応出来ません。
- ✕ 改造などの手を加えたものや、本組立施工マニュアル記載外の納まり・サイズ等。
- ✕ 法に定める以外の屋根材を使用したもの。  
(材質、及び使用範囲についてはカタログをご参照ください。)

■ 対応サイズ及びパターン

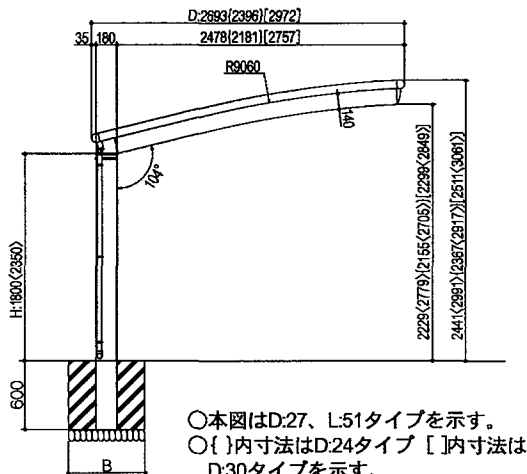
基準風速V<sub>0</sub>(建築基準法による)及び各地域毎に定める積雪量により以下のサイズとパターンのものが設置可能です。

施工パターン	補助柱の有無	奥行												
		区分	間口24		間口27				間口30		間口30			
			柱本数	2本	3本	2本	3本	2本	3本	3本	3本	3本		
単体棟	補助柱無し	基準風速V <sub>0</sub>	34(m/s)	36(m/s)	34(m/s)	36(m/s)	34(m/s)	36(m/s)	34(m/s)	36(m/s)	34(m/s)	34(m/s)	34(m/s)	
		積雪	比重0.2	30cm(600N/㎡)	40cm(800N/㎡)	30cm(600N/㎡)	40cm(800N/㎡)	30cm(600N/㎡)	40cm(800N/㎡)	30cm(600N/㎡)	40cm(800N/㎡)	30cm(600N/㎡)	30cm(600N/㎡)	30cm(600N/㎡)
			比重0.3	20cm(600N/㎡)	25cm(750N/㎡)	20cm(600N/㎡)	25cm(750N/㎡)	20cm(600N/㎡)	25cm(750N/㎡)	20cm(600N/㎡)	25cm(750N/㎡)	20cm(600N/㎡)	20cm(600N/㎡)	20cm(600N/㎡)
単体棟	補助柱有り	基準風速V <sub>0</sub>	36(m/s)	36(m/s)	36(m/s)	36(m/s)	36(m/s)	36(m/s)	36(m/s)	36(m/s)	36(m/s)	36(m/s)	36(m/s)	
		積雪	比重0.2	40cm(800N/㎡)	40cm(800N/㎡)	40cm(800N/㎡)	40cm(800N/㎡)	40cm(800N/㎡)	40cm(800N/㎡)	40cm(800N/㎡)	40cm(800N/㎡)	40cm(800N/㎡)	40cm(800N/㎡)	40cm(800N/㎡)
			比重0.3	25cm(750N/㎡)	25cm(750N/㎡)	25cm(750N/㎡)	25cm(750N/㎡)	25cm(750N/㎡)	25cm(750N/㎡)	25cm(750N/㎡)	25cm(750N/㎡)	25cm(750N/㎡)	25cm(750N/㎡)	25cm(750N/㎡)
合掌		基準風速V <sub>0</sub>	34(m/s)	36(m/s)	34(m/s)	36(m/s)	34(m/s)	36(m/s)	34(m/s)	36(m/s)	34(m/s)	34(m/s)	34(m/s)	
		積雪	比重0.2	30cm(600N/㎡)	40cm(800N/㎡)	30cm(600N/㎡)	40cm(800N/㎡)	30cm(600N/㎡)	40cm(800N/㎡)	30cm(600N/㎡)	40cm(800N/㎡)	30cm(600N/㎡)	30cm(600N/㎡)	30cm(600N/㎡)
			比重0.3	20cm(600N/㎡)	25cm(750N/㎡)	20cm(600N/㎡)	25cm(750N/㎡)	20cm(600N/㎡)	25cm(750N/㎡)	20cm(600N/㎡)	25cm(750N/㎡)	20cm(600N/㎡)	20cm(600N/㎡)	20cm(600N/㎡)

### 建築基準法対応用

■ 納まり図

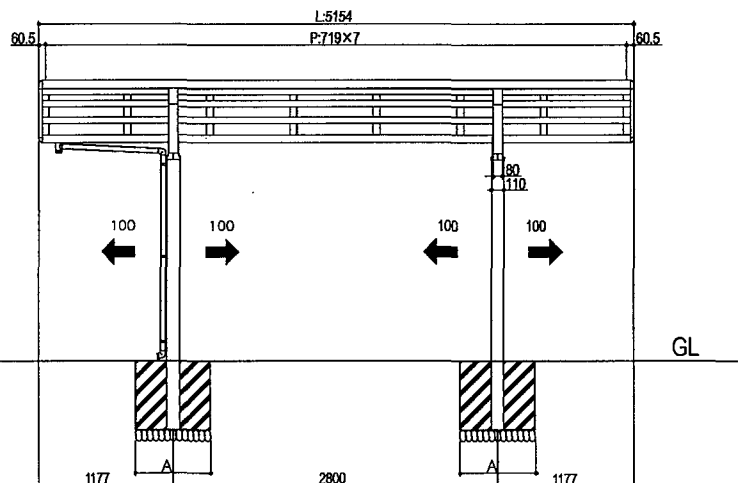
● 単体(柱2本)(正面図)



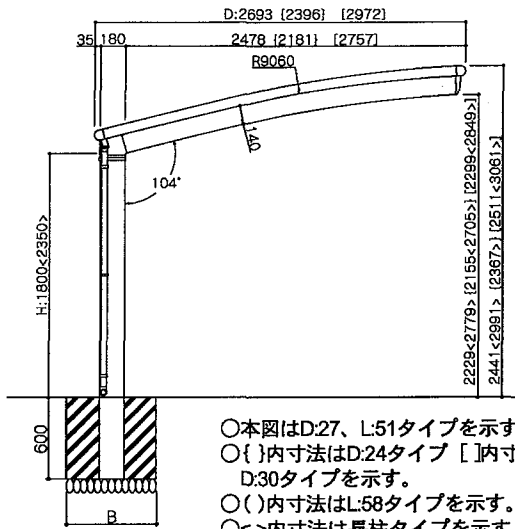
- 本図はD:27、L:51タイプを示す。
- { } 内寸法はD:24タイプ [ ] 内寸法はD:30タイプを示す。
- < > 内寸法は長柱タイプを示す。
- →印は柱移動範囲を示す。

**注意**

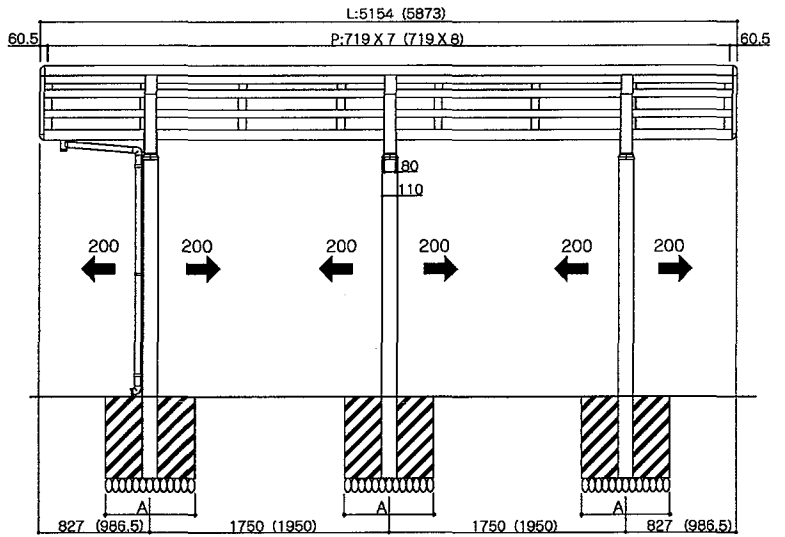
一般用の基礎とは寸法が異なります。基礎の大きさはP3を参照してください。



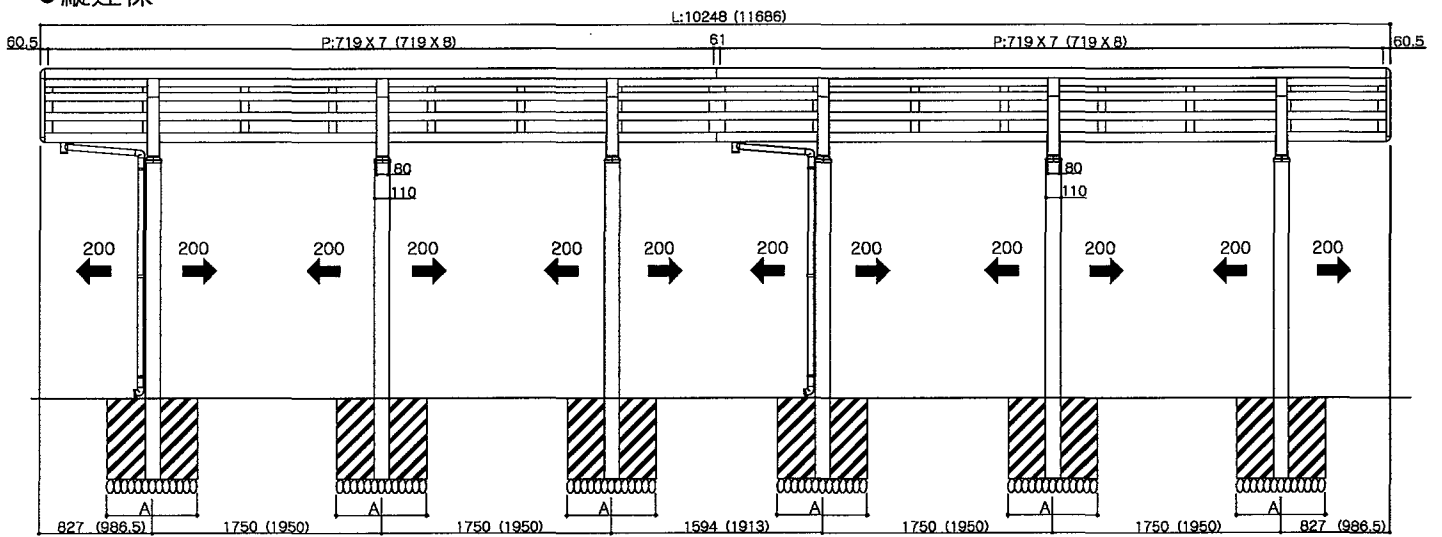
● 納まり図  
● 単体(柱3本)



- 本図はD:27、L:51タイプを示す。
- { }内寸法はD:24タイプ [内寸法はD:30タイプを示す。
- ( )内寸法はL:58タイプを示す。
- <>内寸法は長柱タイプを示す。
- 印は柱移動範囲を示す。

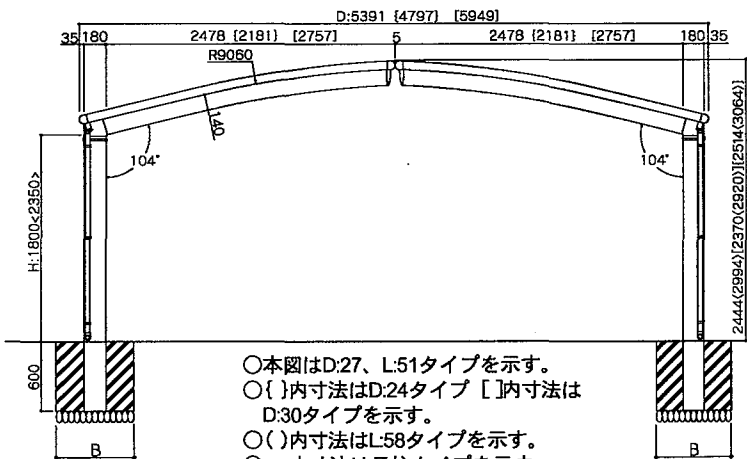


● 縦連棟

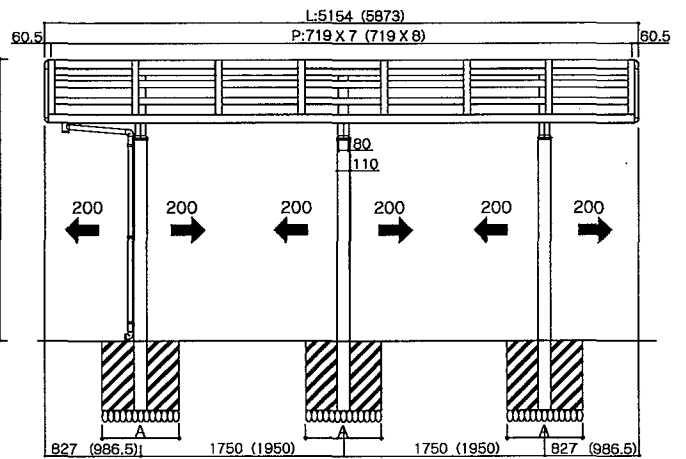


- 本図はD:27、L:51タイプを示す。
- ( )内寸法はL:58タイプを示す。
- 印は柱移動範囲を示す。

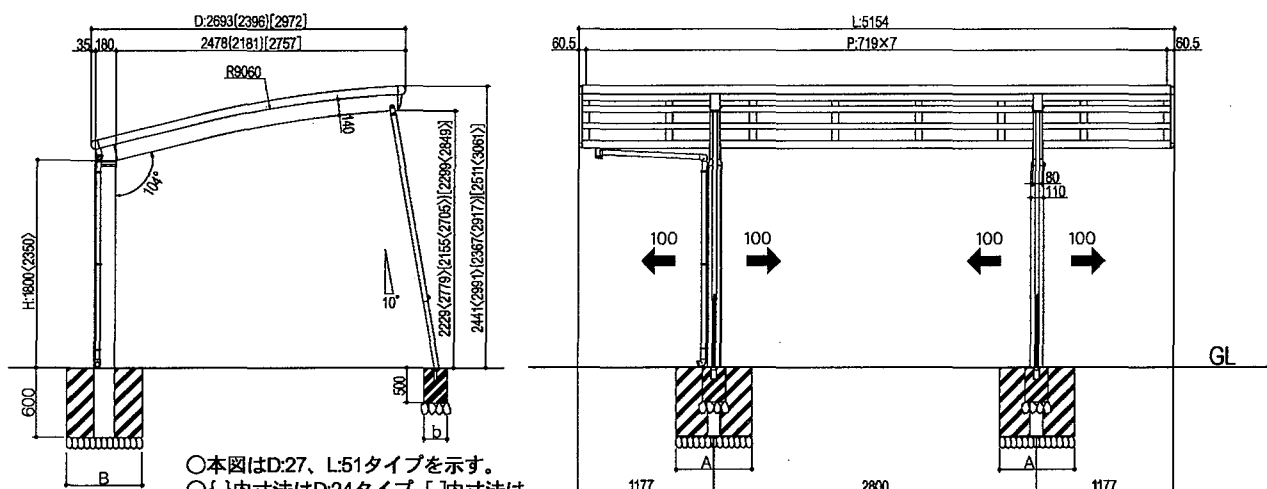
● 合掌



- 本図はD:27、L:51タイプを示す。
- { }内寸法はD:24タイプ [内寸法はD:30タイプを示す。
- ( )内寸法はL:58タイプを示す。
- <>内寸法は長柱タイプを示す。
- 印は柱移動範囲を示す。



●補助柱付納まり



- 本図はD:27、L:51タイプを示す。
- { }内寸法はD:24タイプ [ ]内寸法はD:30タイプを示す。
- <>内寸法は長柱タイプを示す。
- 印は柱移動範囲を示す。

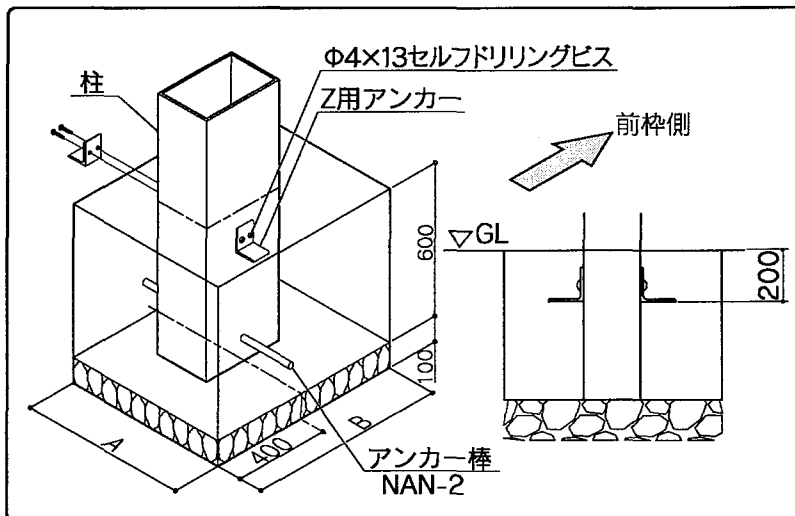
■基礎部納まり



本製品を建築基準法に対応させる際は、以下の本体の柱・補助柱共以下の基礎寸法を必ず守って施工してください。また、アングル、アンカーも必ず取り付けてください。

●本体柱のアンカーの取付けについて

- ① 柱の固定位置は納まり図を参照してください。
- ② 必ずアンカー棒を使用してください。
- ③ 基礎寸法及び埋め込み寸法は、図の寸法以下にならないように施工してください。
- ④ 柱の移動は範囲を守ってください。



●補助柱の組立と基礎について

補助柱の組立については、補助柱内の組立施工マニュアルを参照してください。但し、基礎寸法については、以下の寸法を必ず守って取付けてください。

柱基礎寸法表

間口 サイズ	間口24	間口27	間口30
単体・連棟 (A×B×C)	1000×1150×600	1000×1300×600	1000×1450×600
合掌 (A×B×C)	900×1000×600	900×1100×600	1000×1250×600
補助柱 (a×b×c)	450×450×500	500×500×500	500×600×500

(注) この基礎寸法表は地耐力が30KN/m<sup>2</sup>にて計算しております。それ未満の地盤には、設置出来ません。

## 建築基準法対応用

●地耐力の目安

地層の硬さ		素掘り	推定地耐力 (KN/m <sup>2</sup> )
粘土性	極軟	鉄筋を容易に押し込むことができる	20以下
	軟	シャベルで容易に掘れる	30
	中位	シャベルに力を入れて掘る	50
	硬	シャベルを強く踏んでようやく掘れる	100
	極硬	つるはしが必要	200
地下水面上の砂質土	非常にゆるい	孔壁が崩れやすく、深い足跡ができる	30以下
	ゆるい	シャベルで容易に掘れる	50
	中位	シャベルに力を入れて掘る	100
		シャベルを強く踏んでようやく掘れる	200
密	つるはしが必要	300	

(注) 地耐力が30KN/m<sup>2</sup>未満の地盤には、設置出来ません。